

奴隸志望



井上母娘編

前略
あなたへ

あなたが旅立ってから
今日で5年が経ちました



最初は辛かったけど

周りの人のおかげで
どうにか乗り越えて

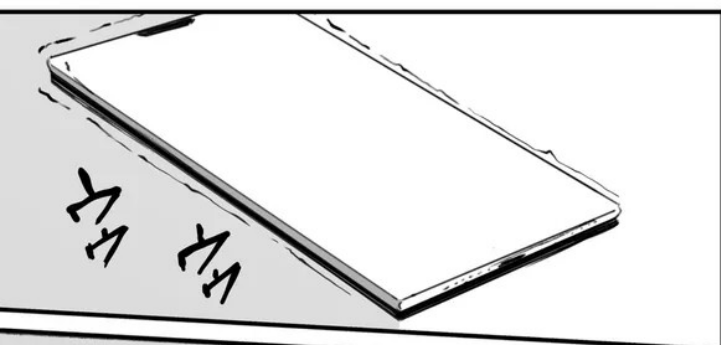
今は前と変わらない生活をしています

よし
できた

みつほもどうか名門校に入れて
多くの学友にも囲まれて

今でも元気なままです

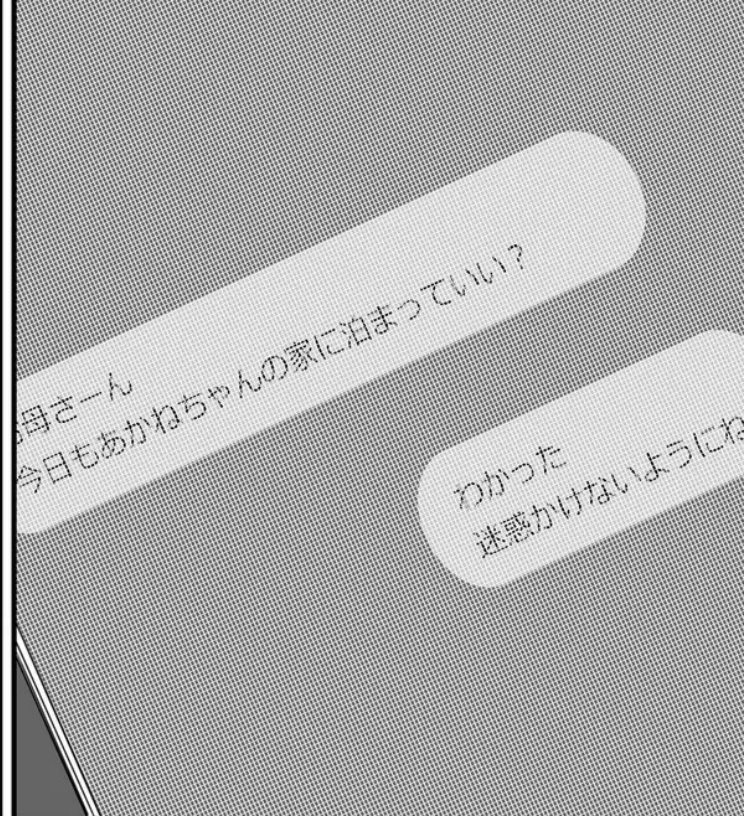
私達は幸せな日々を
過ごしています





あの子も知らない内に
大人になっていました

もう私達だけの
娘じゃないみたい



母さーん
今日もあかねちゃんの家に泊まっていい？

わかった
迷惑かけないようにね



中を確認してるの
もそうです

罪悪感はあるけど
これも母親の役目

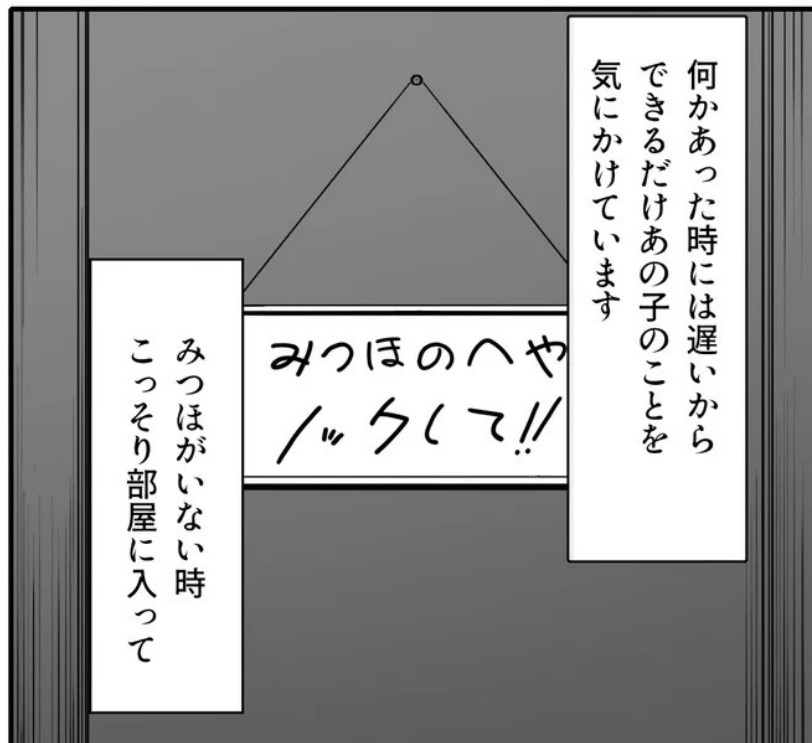


でも…方が一のこともあるし



そう言い聞かせて
みつほの部屋を調べて

机の上にあった
パソコンを開きました



何かあった時には遅いから
できるだけあの子のことを
気にかけています

みつほのへや
1ックして!!

みつほがいない時
こっそり部屋に入って

そこに映っていたのは

あの子そっくりの女の子が



酷い虐待を受け

玩具のように
扱われる様子でした





警察に通報しなきゃ
とも思ってたけど

あ…

ご主人様
もっとお…



なにもできなかった

サッ…サッ…

それがみつほどと
信じたくなかったのか
それとも…



その表情が

は
♡

ふる

ふる

ふる

は
♡

苦しいどころか
これまでにないくらい
幸せそうに見えたからか…

そ…そうよ…
まだあの子だって
決まったわけじゃない

サッ
サッ

サッ

動画や写真はまだある
それを全部確認すれば…

ズッ

ズッ

ズッ

日を追うごとに
行為はどんどん過激に
なっていた

ホッ

ハッ
ハッ

私よりも年上に見える男性と
同級生くらいの女の子に虐められ

ズッ

ズッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

見ているこっちに
まで痛みが伝わってくる…

こんな酷い光景なのに…

なんで…

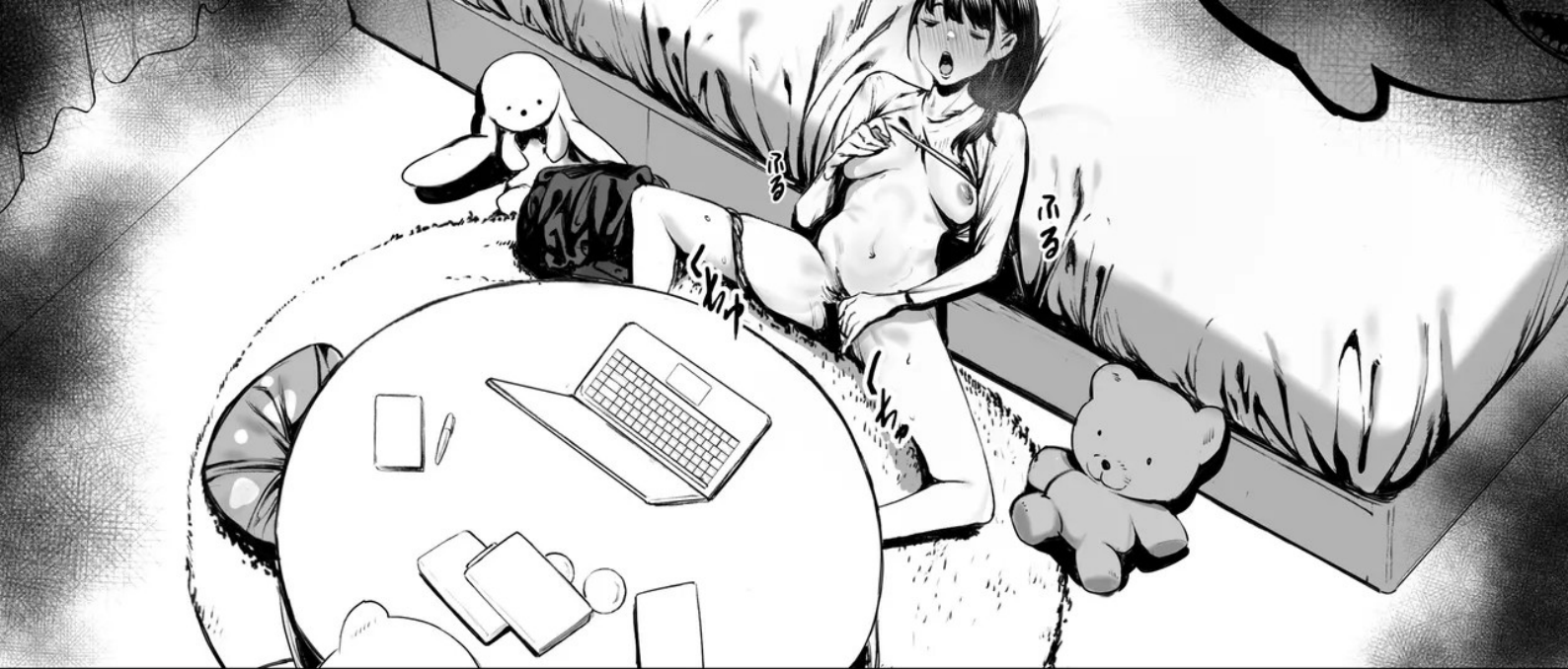
私は…

興奮しちゃったんだろう…









まだみつほだって
証拠はないよね…

もつと…もつと
よく確かめなきゃ…



そう…
いってらっしゃい

気づかれないように
何も知らないふりをして



茜ちゃんにお泊まり
誘われたんだけど
行ってもいい？



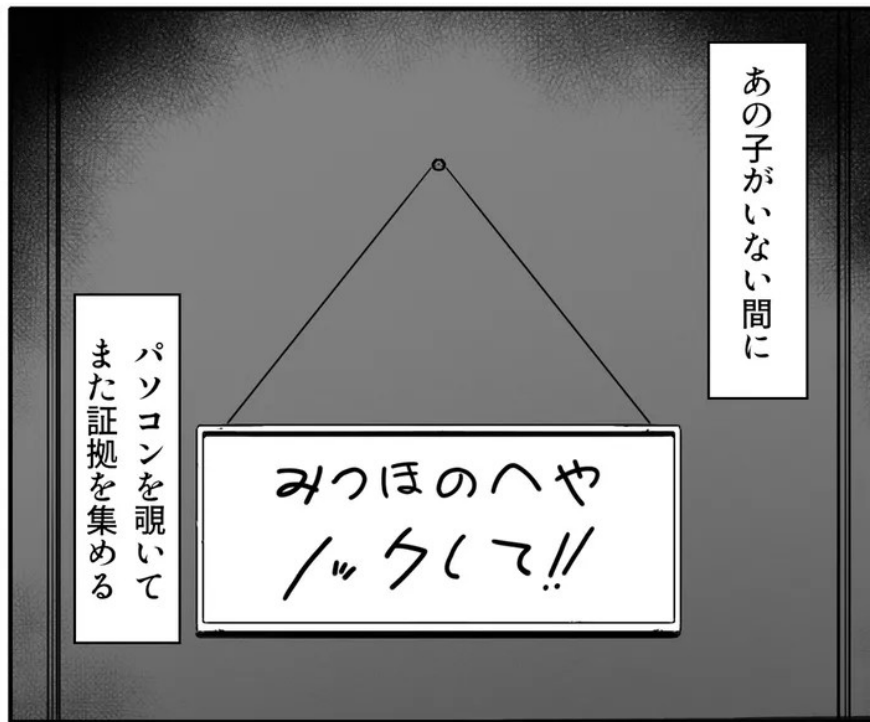
私の娘にあんなひどい
事するなんて許さない…

絶対に証拠を掴まないと…

ああっ……

もう……っ—

ご主人様ッ—



あの子がいない間に

パソコンを覗いて
また証拠を集める

みつほのへや
ノックして!!

同期中。

新しいデータを
チェックする度に

は！

は！

その子の様子は徐々に
獣のように変わっていった

完全に調教されちゃってる…

女の子にこんな
酷いことするなんて…

もし私の行動が勘づかれたら

証拠隠滅のためデータが
消されてしまうかもしれない

だから…
今のうちに全てを
目に焼き付けたいと…

これは
あの子を助けるため…





あれから一ヶ月以上が経過したけど…結局何も掴めなかった



その間に画面の向こうの女の子は「メス」として完成した

タ同時中



私は……これからどうすれば…

楽しんでくれたかな？

お母さん



安心して
ご主人様の奴隷になったのは
全部私の意志

これからの人生を全部
ご主人様に捧げること

お母さんには分かって
もらいたかったんだ



でも…これだけじゃ
許してくれないよね

だから…
直接伝えたいんだ

そろそろそっちに
迎えが来ると思う
また後でね

お母さん







初めまして
井上しほさんですね？



は…はい……

奴隸士心望

井上母娘編



気付いた頃には
私は彼女と一緒に車に乗っていた



それでも
どこかほっとしている自分がいた

そこから先のことは
よく覚えてない



女性は「娘さんのことは
安心してください」と言う

あの映像を見た以上
安心なんてできるわけないけど



街を離れてから

だいたい3時間くらい
経った頃



目の前にあったのは
洋館だった



庭の向こうに消えていった

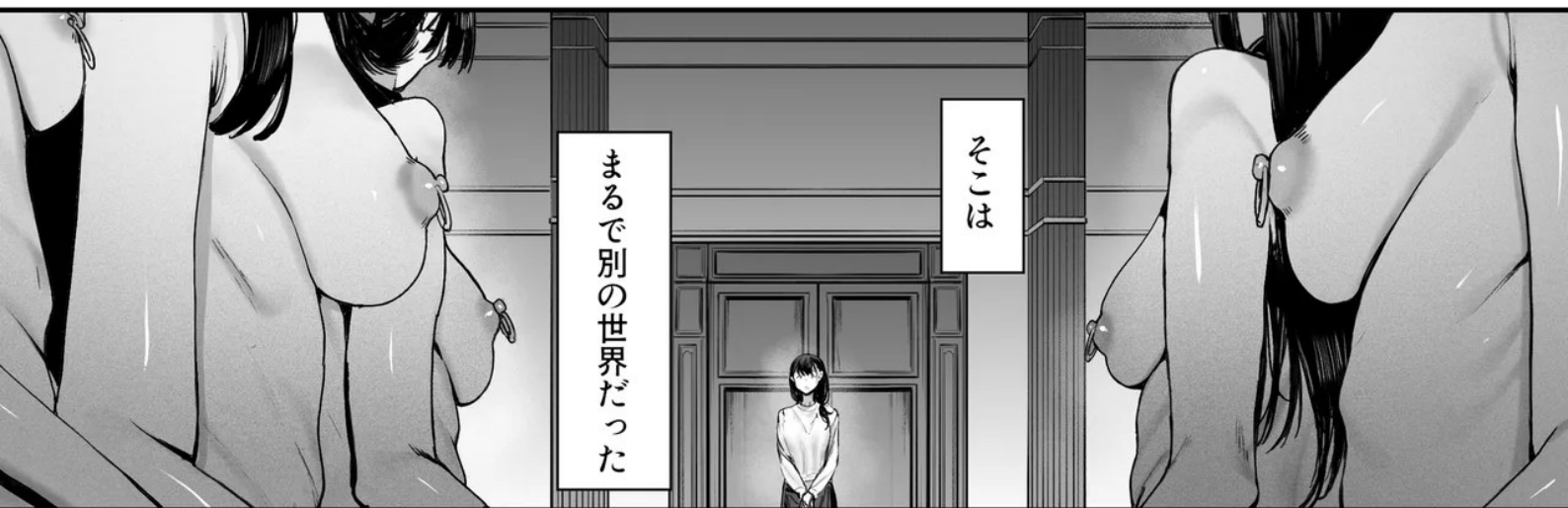


中に入ろうとすると
彼女は静かに一礼をして



深呼吸をしてから
重い扉を開くと

カッ





ど…どうしよう…

とりあえず会釈を
返しておこうかな…



その時
私の後ろから
足音が聞こえた

きっとこの主人が
帰ってきたんだろう



そうだ
みつほはどこに…



…？
だれか一緒にいる？



女性たちは自然に
扉の前に整列し

犬のような恰好を
した彼女たちは

私ではなく
主人を待っていたのだ



はー♡

はー♡



裸になって
四つん這いで歩く

はあ
はあ



彼の後ろにいたのは

はー

はあ
はあ





ごめんなさい

ほら…母に言うことがあるだろう

奴隷が勝手に行動してしまって…
いやはや、躰が足りなかったか



話は聞いているようですね

申し訳ない…本来なら
私が伝えるべきでしたが



長旅でお疲れでしょう

どうぞこちらへ
お茶を出しましょう

なんだか…もっと…
悪い人を想像して
いたけど…意外と紳士的…
この人の声を聞くと
不思議な気持ちになる…



私は奴隷たちに見守られながら
紳士とみっほに案内され
館の奥へ向かった



紳士は
自分の特殊な欲求を
満たすため

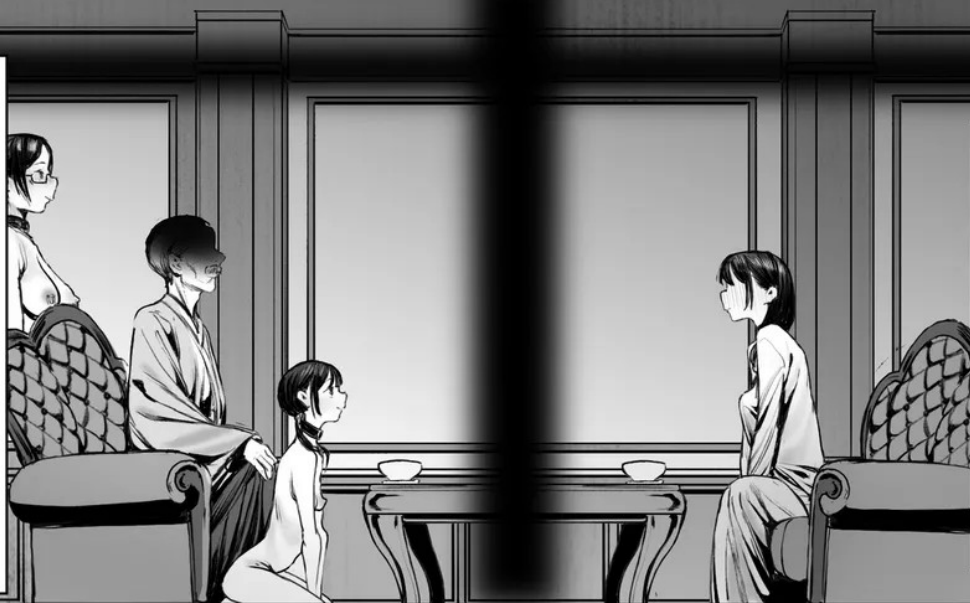
そして…同じ趣味を持つ者達の
オアシスとして



人里離れた山奥に
この洋館を建てたらしい

「奴隷」と言ってもあくまで
一種のロールプレイ

その気になればいつでも帰れる
洋館にいる間は生活費も貰える



彼から渡された
「奴隷契約」の書類にはそう
記されていた

みつほは友達から
勧められて
ここの奴隷になる
ことを決めたらしい

けれど…その子の家庭は特殊で

うちとは事情が違う
私を説得するには自分自身の調教
の記録を見せるしかなかった

それが事の
顛末とのこと



メク

迷惑かけて本当に
ごめんなさい

そう言って
みつほは私に土下座した

初めて見る娘の土下座は
とても優雅に見えた

困惑はしたけど
みつほがどんな
趣味を持ってい
ようとそれは彼女の自由

そもそも謝るような
ことじゃないと
彼女に伝える

すると
みつほは頭を上げて

さっきの女性たちと
同じ目を私に向けた

お母さんが心配なのは分かってる
でも…ご主人様の奴隷になるのは
私の一番の幸せなの

だから…お母さんにもこの生活を
体験してもらって
それから決めてもらおうかな…って

ニク



そ...そうよね...
それがいいわよね

...



お母さん
よく眠れた？

.....ええ



なんで...
この提案を
受け入れたんだろう

自分でも分からない

じゃあ...はい
これー

次からは自分でつけてね

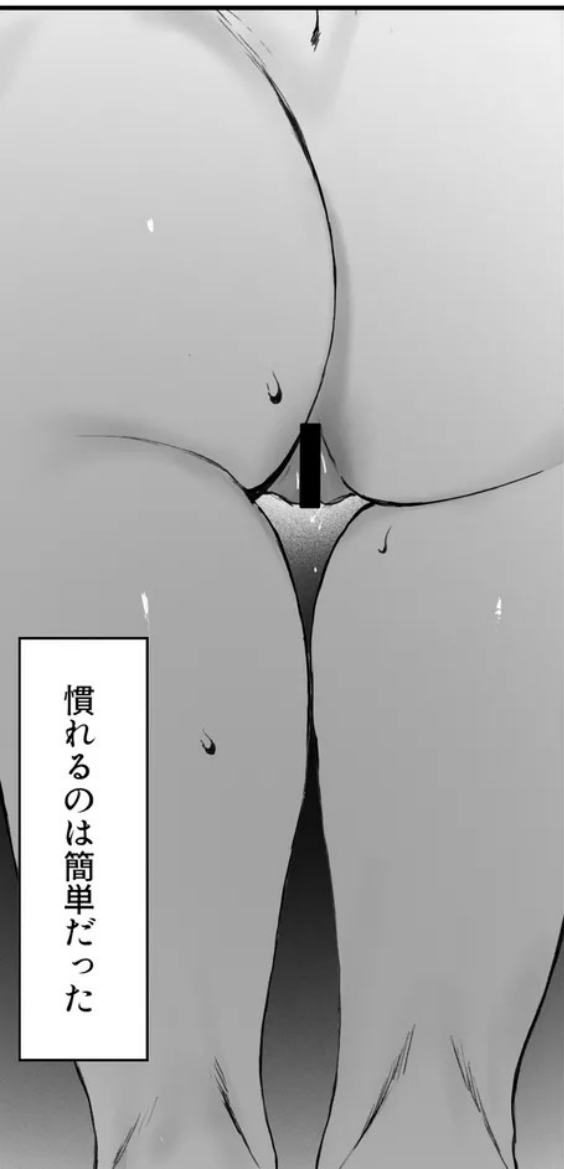
でも…これでみつほの選択が正しいか否か確かめられる



私の奴隷体験が始まった



裸で家中を歩くななんて
想像もできなかったけど



慣れるのは簡単だった



気分はどう？

ここではそれが常識だ
と頭に刷り込んでしまえば

そこからは

みつほに基本を
教えてもらう日々
だった

歩き方や
挨拶の仕方……

この家での常識を
事細かに教えてくれた

彼女の教え方や
言葉遣いはとても丁寧で

図らずとも
娘の成長を実感してしまった……

それから他の奴隷さん達への紹介も受けた



まだ体験でしかないのに彼女たちは快く私を受け入れてくれた

こうして始まった主人への奉仕活動

とはいえやっтерることはいつもの家事と大差なかった



相手を快適に過ごしようにするを考えてる

みっほからこの主人に変わることだけで

奴隷さんたちとも次第に打ち解けて



あっという間に時間が過ぎていった

そして夜になると
本当のご奉仕が始まる

今日の担当は

みつほだった

モニター越しにしか
見れなかった光景が

今は目の前で起きている

本当なら
こんな酷いこと今すぐにでも
やめさせなきゃいけないのに



みつほの恍惚とした
表情を見ると



彼女が「女」として
喜んでいることが
嫌でも分かる



それが羨ましくて…



ただ見てることしか
できなかった

それに気付いたのか
みつほは主人に目配せして

私も「体験」することを
お願いした

ぴん
ぴん



今日は見学だけのつもり
だったのに……

まさかこんなことにな
るなんて……

いざ「それ」を目の前にして
戸惑っている私を見て

最初はゆっくり
丁寧……

口の中が……
埋め尽くされる……

みつほは手を
差し伸べてくれた

「奴隷は、
ご主人様を喜ばせるための道具」
みつほは耳元でそう囁きながら

道具としての動きを
教えてくれた

親子の立場が
逆転したみたいに

みつほは私を答えに導いて
私もそれを実践して

彼は口角を上げ
静かに頷く
当事者である私に
対してか

それとも指導者で
あるみつほに對してか
は分からなかったけど

主人を喜ばせた

どちらに
しても
私は嬉しかった

少しずつだけど
奉仕の喜びが分かってきた
気がする

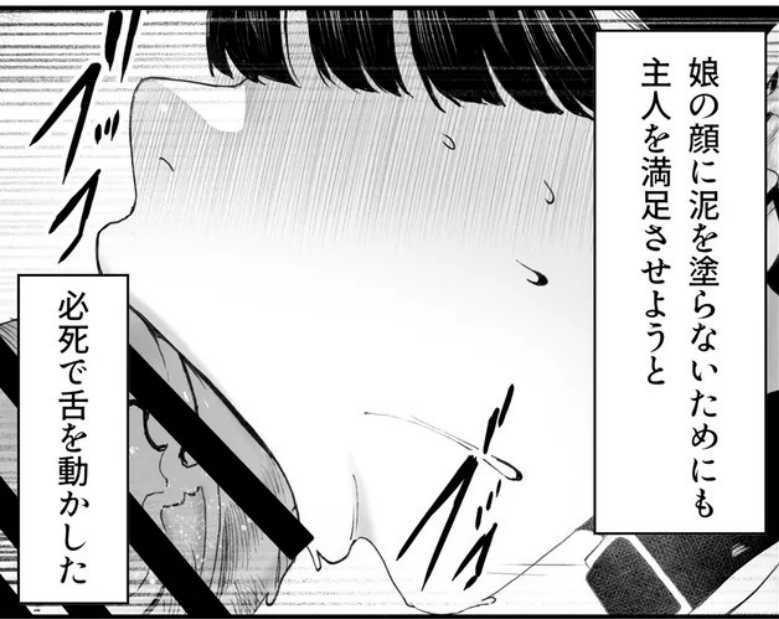


確かみつほはさつき

これくらいのペースで…

娘の顔に泥を塗らないためにも
主人を満足させようと

必死で舌を動かした



素晴らしい
上出来だ





花丸の代わりに
口いっぱい精子を
受け取った



この瞬間…
みつほの気持ち完全に
理解できた

今までの人生で一番の喜びが
そこにはあった



でも
体験はここまで

本当の奴隷にならなければ
主人の全てを受け入れることは
できないとのこと



さっきまでの数分で
私の脳は作り替えられて
しまった

実の娘が
目の前で玩具のように
犯されているのに



足りない……もっとほしい……

そのためには……



「羨ましい」以外の感情が湧いてこない







みつほと心の奥底から
分かり合えた気がした

それから
次の朝を迎えて

作法を学び

家事もこなし

夜を待つ



その後は他の奴隷さんと
一緒にご奉仕の練習



まだ本番は見ることしか
できないけど

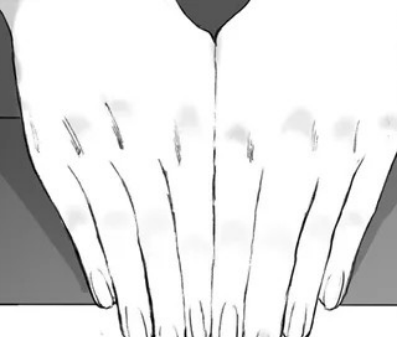


画面越しに見るよりは
何倍もよかった

足りない分は奴隷さん達が
慰めてくれる時もあった



こうして充実した非日常は
あっという間に過ぎていく



ここに来てからちょうど
2週間が経った日

私はついに一枚の書類に
サインをした



この館は
常識から遥かに逸脱している
でも

ここには確かに幸せが
満ち溢れていた



主人の人格も分かった
彼になら…娘を任せられる

たとえそれが
異常な世界への道でも
母親として娘の背中を
押したいと思えた。



こうして
みつほは正式に彼の奴隷となった

元気でね



ありがとう…お母さん

主人は私の決断に
感謝の意を述べると同時に

娘の奴隷としての幸せを
約束してくれた

明日私はこの場所を立つ

その夜
主人は私に豪華な寝床を
用意してくれた

朝になれば
私は日常に戻る

みつほとん生活も
これで終わり

……旦那が亡くなってから
娘一筋で生きてきた

これから…
私はどうなるんだろう

そう考えると
上手く寝付けなかった



みつほは私の部屋に来て

お母さん、まだ起きてる



甘く囁くような声で



お母さん
本当に帰っちゃっていいの？

ここに残って一緒に
ご主人様の奴隷にならない？

と…提案した



ホントに？

嘘ついちゃいけないって
お母さんよく言ってたじゃん



そ…
それはダメ…



酷いことされて…人間じゃなくて
道具として扱われて…
…それなのに興奮と喜びを隠せない

雌としての
本能在芽生えてる



抵抗しようと
思えばできた
はずなのに

娘のか弱い手に
押さえつけられて
しまった



どうして…何も
言い返せないんだろう…



親子だもん
隠したって無駄だよ

お母さんだって…



この子…なんで私の弱いところ
知って…ッ

はあ

ぺろ

はー

はー

くっ

はあ
はあ

くっ

ああ…
…ダメッ…イッ—

…な…なんで
止めるの??

あー

くっ

くっ

れろ

ふろ

ふろ

ああ

ふろ

ほら…ちゃんと
本心言ってくれないと

れろ

れろ

あッ

あー

グ

…ッ

このまま生殺しでいいの??







あとは
わたしに任せて



ああみつほ…
こんなに立派になって…

この子はもう
子どもじゃないんだ

私も…もう「母親」を
終わりにしていいんだ…



ハ
ハ
ハ
。



ハ
ハ
。



ハ
ハ
ハ
。

ハ
ハ
ハ
。



私、井上しほはこれから人間を
止めます

娘と同じ……いいえ
それ以下のメス奴隷になります

どうか私をあなたのものに
してください……「ご主人様」



こんないい贈り物を
くれるなんて…立派な奴隷だ



もちろんだ

歓迎するよ



お母さんを
手伝ってあげなさい

イテ

ありがとうございます
ご主人様



ご主人様は私の頭を
優しく撫でてくださった

ナッ
デ

私はそれに
服従の礼を返す



こうして…娘が見守る中
奴隷としての初夜が始まった



みつほと一緒に
ご主人様にご奉仕する

やっていることは
昨日までと同じなのに

気分は全然違った



私はご主人様を
喜ばせるための道具



そう思うと勝手に
身体が動いていた



ご主人様が
優しく頭をなでる
「準備完了」の合図だ

ついに...

あゆ
み...



ご主人様の全てを受け入れられる…



指先が私の肌に触れると

否応なしに身体が服従を求めてしまう

みつほも私の弱点を責め続ける

私を最高の状態で
ご主人様に献上するために



じゃあお母さん

どうされたいのか
ちゃんと言って?

準備はできました



ふ

娘の前で…
こんな恥ずかしい姿を
見せてごめんなさい…

ふ

くば

どうか…このどうしようもない奴隷を
道具のように犯してください…

く

く



ご主人様は
静かに頷くと

私の奥までねじ込んだ

奴隷としての幸福が
脳を満たして
全身を痺れさせる

ああ……ありがとうございます
ご主人様……

この2週間溜まって
いたものを全て満たすため



ご主人様とみつほは
何度も



何度も



私を絶頂させた



獣として雌としての自分を
娘に晒しながら

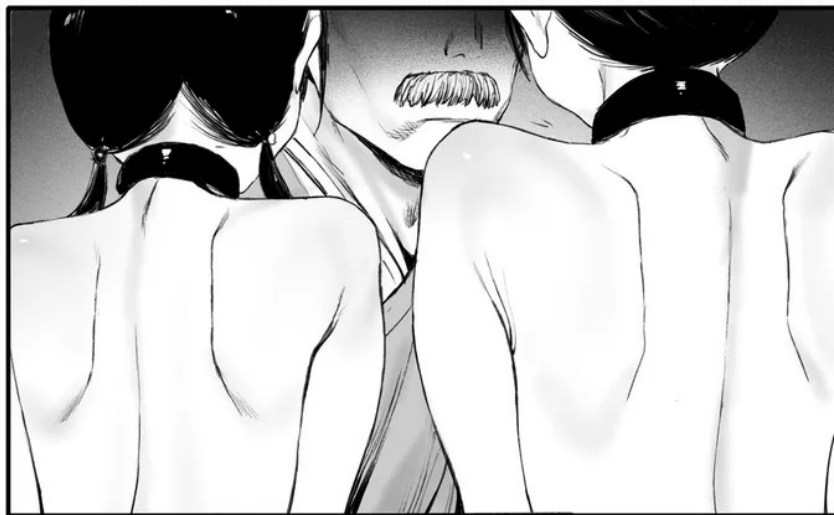
おおお！！

奴隷として最初の夜は終わった









その後ご主人様は私達を
奴隷さんたちに披露した

これから
みんな仲間だ

「待っていた」
と言わんばかりの
熱烈な視線を受ける

それを見て
私の中の小さな不安も
期待に変わり

うっひゃ

28は私に目配せを送る

その笑みの奥に嫉妬や羨望が
わずかに見えただけ

それは決して不快を表すものじゃない
私は笑みを返した

みんなに見送られるように
ご主人様を追って館の奥へ
向かった

へん

へん

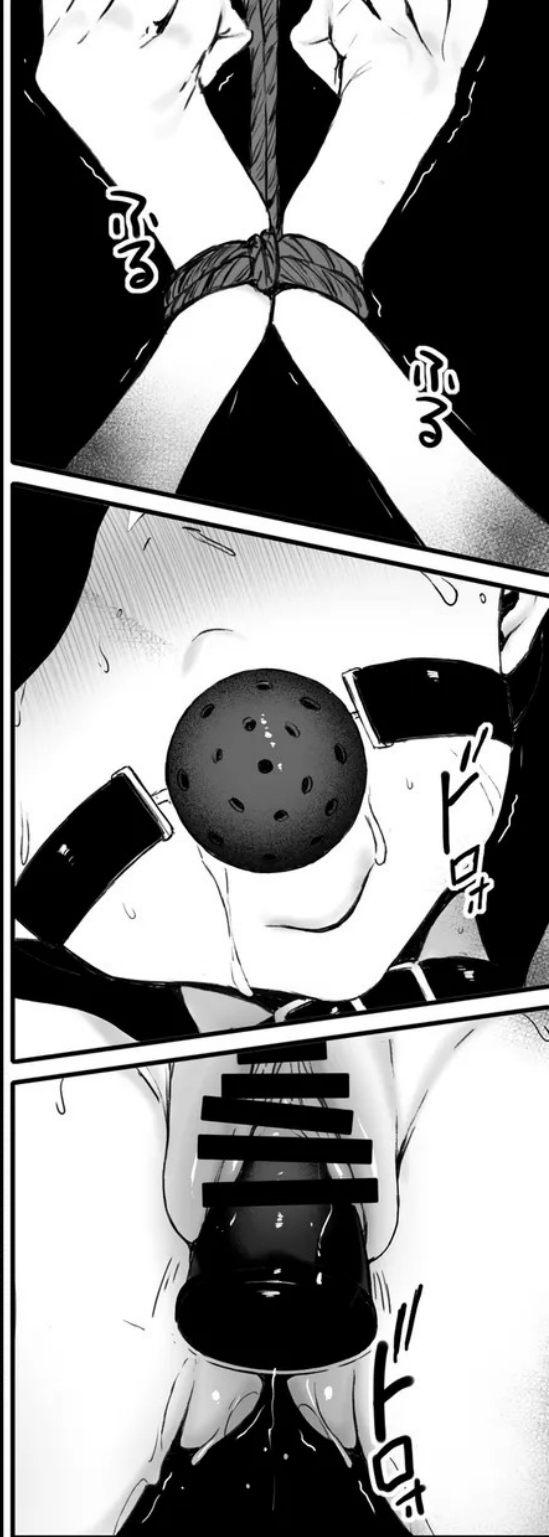
へん

へん



ここから

本物の調教が始まる



うむ…素晴らしい

でも…
私の場合は少し特殊だった

直接鞭を振るうのは
ご主人様ではなく

娘の28だった

いつでも始められます
ご主人様

うむ
それでは――

ご主人様が命令を出し

28がそれを実行する

自分も調教されたからか
それとも私の弱点を
知っているからか

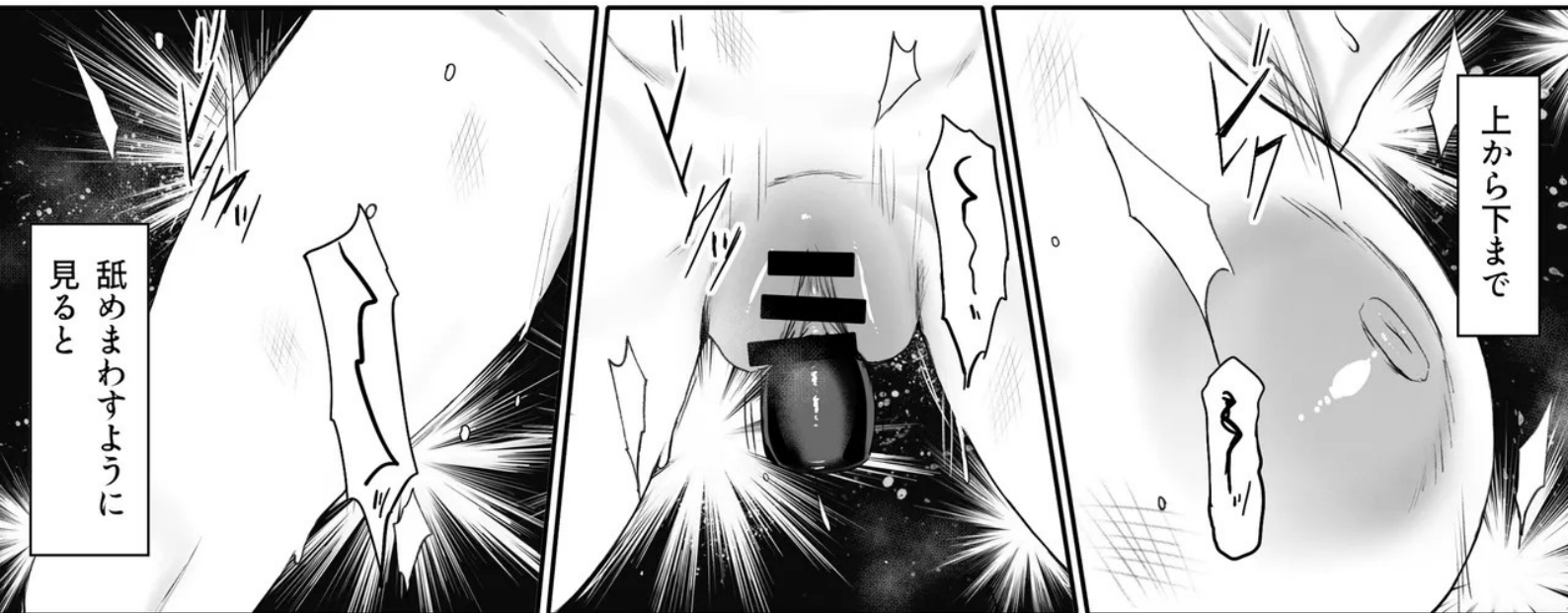
痛みの度に快感が体の奥から
引きずり出された

ご主人様の声を聞く度に

私の快感は増していく



上から下まで

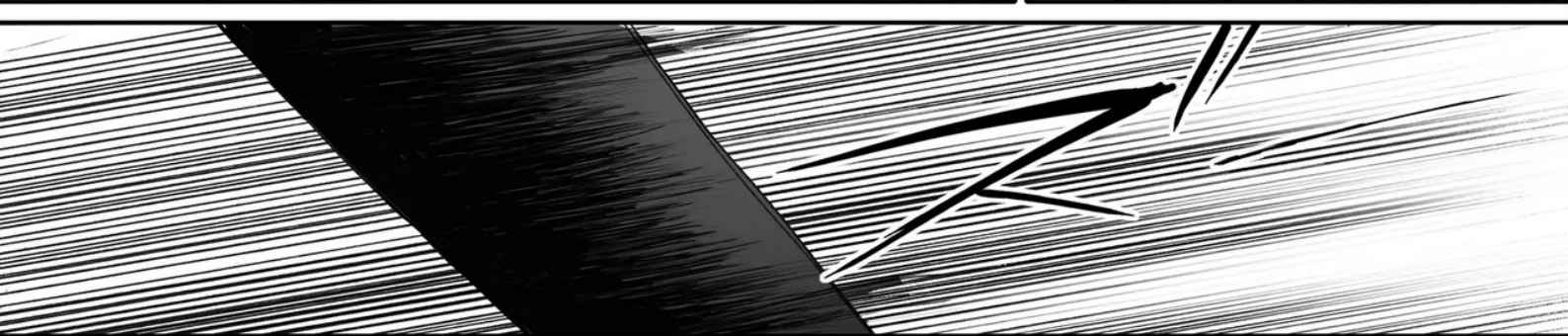
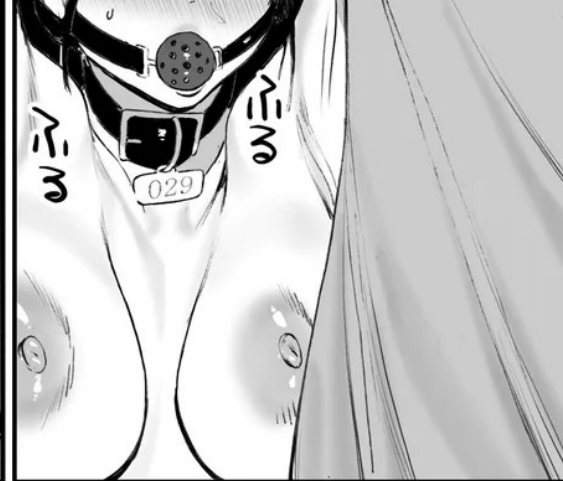
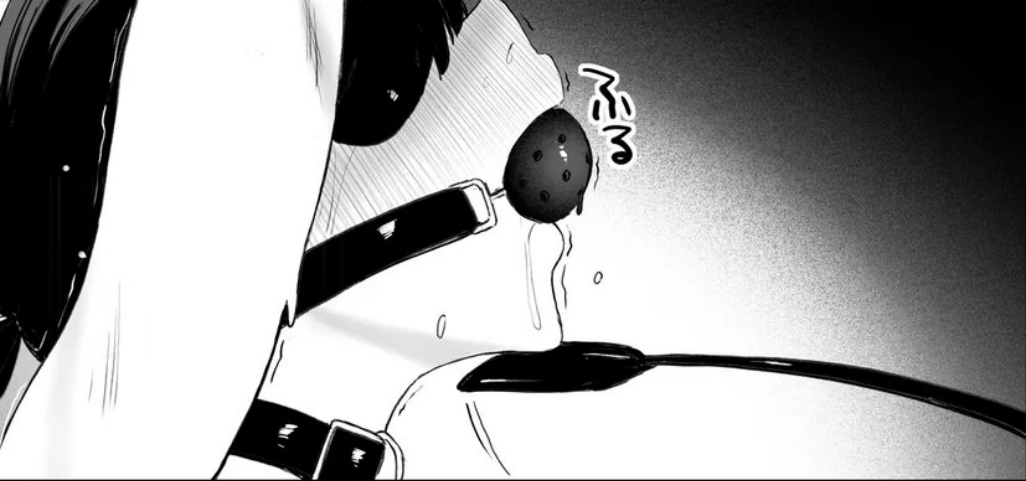


舐めまわすように
見ると

ご主人様は一つ領いて

28から鞭を受け取った





仕上げだ



28の手で乳首に完成の証が
授けられた

感覚の調教は終わり

ここからは人間を
捨てる調教だ



基本の作法は熟知しているが
それだけでは足りない



本物の奴隷は犬のように
考えずに命令に従うことができる

お座り





これは今まで娘に教えてきたことと真逆だ



29
服従の儀を



人間を忘れ
獣に戻る

この調教は
それを刷り込むためのもの



うむ
完璧だ

二人とも
お座り



ご褒美をあげよう
もちろん28にもだ



私達は
ご主人様からご褒美をもらった

他でもない娘と共に
これを受け取れたことが
何よりも嬉しかった

本来ならもう第二の証を授かってもいい

でも
私のご主人様にもっと完成した私を差し上げたい

28の提案でさらなる調教を受けることにした

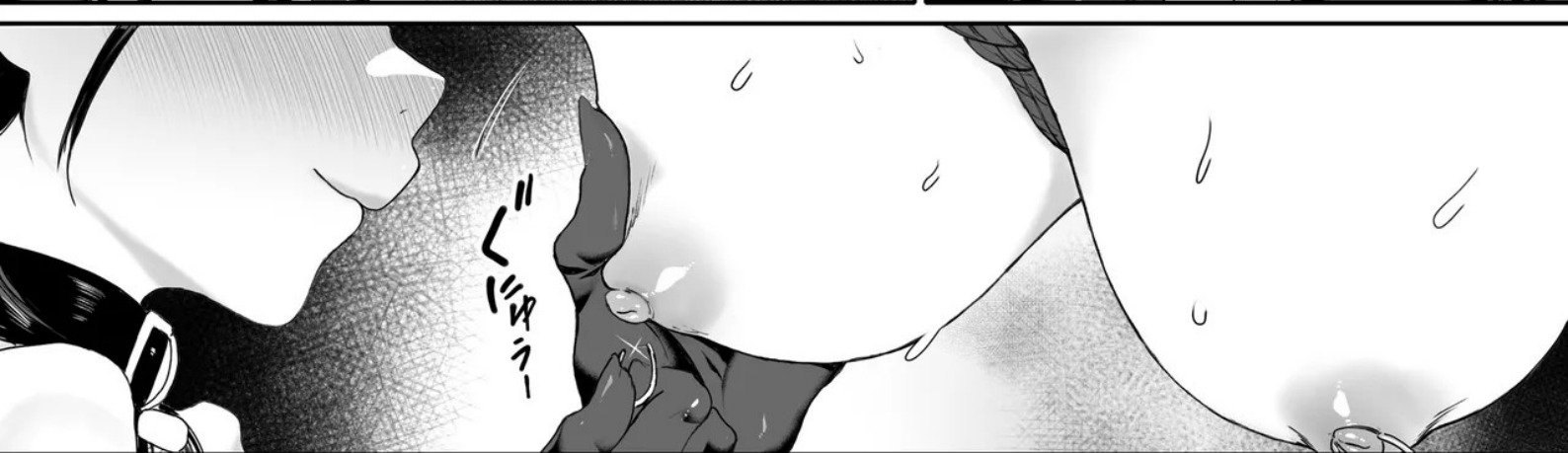
それは
28自らが考案した――

今までの幸福の経験に
基づいて作られた



私をさらに完成させる
調教だった





しばらくして
ついに個人調教が終わり



先輩たちが見守る中

完成の儀式が始まった

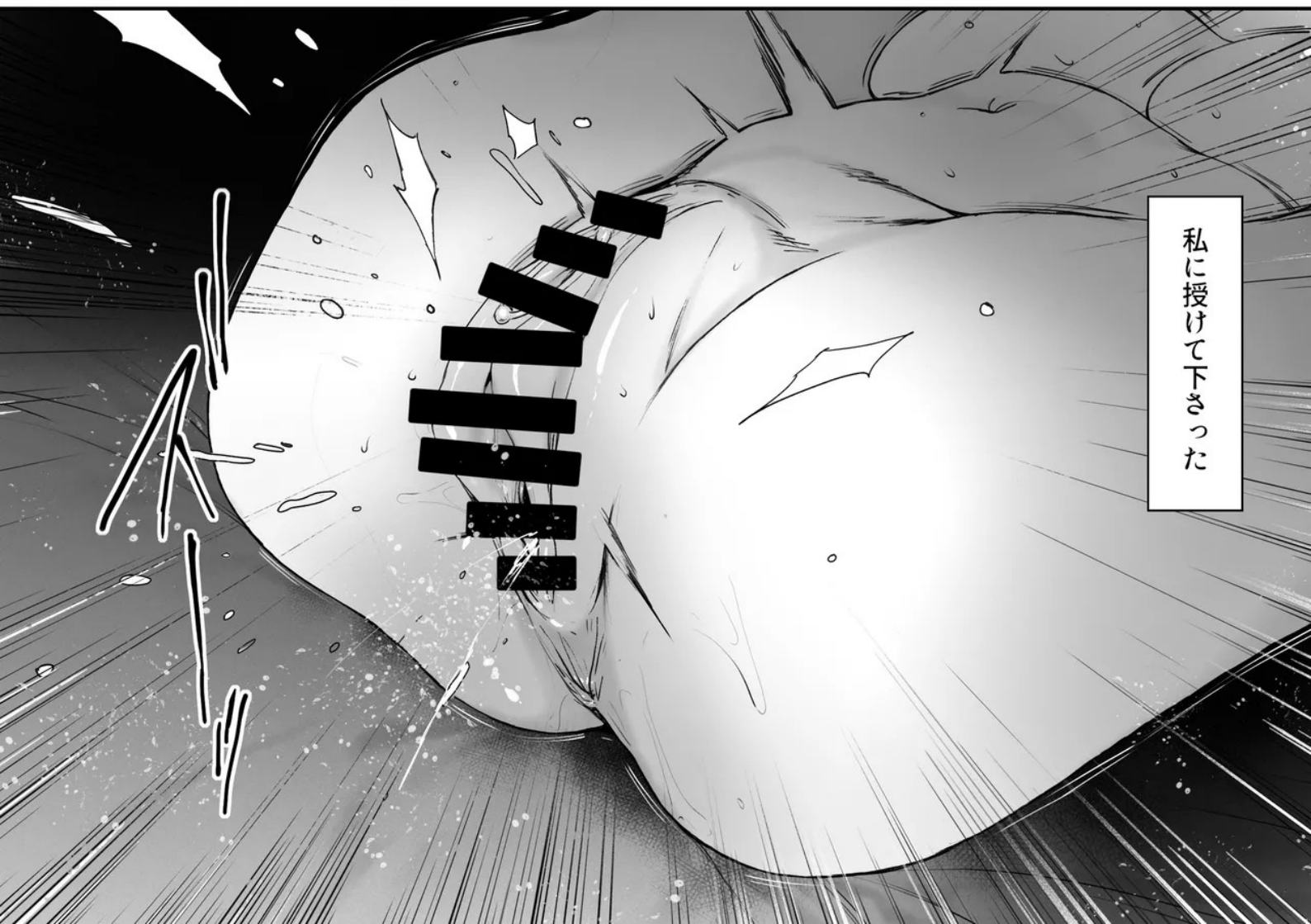




執り行うのは
もちろんご主人様

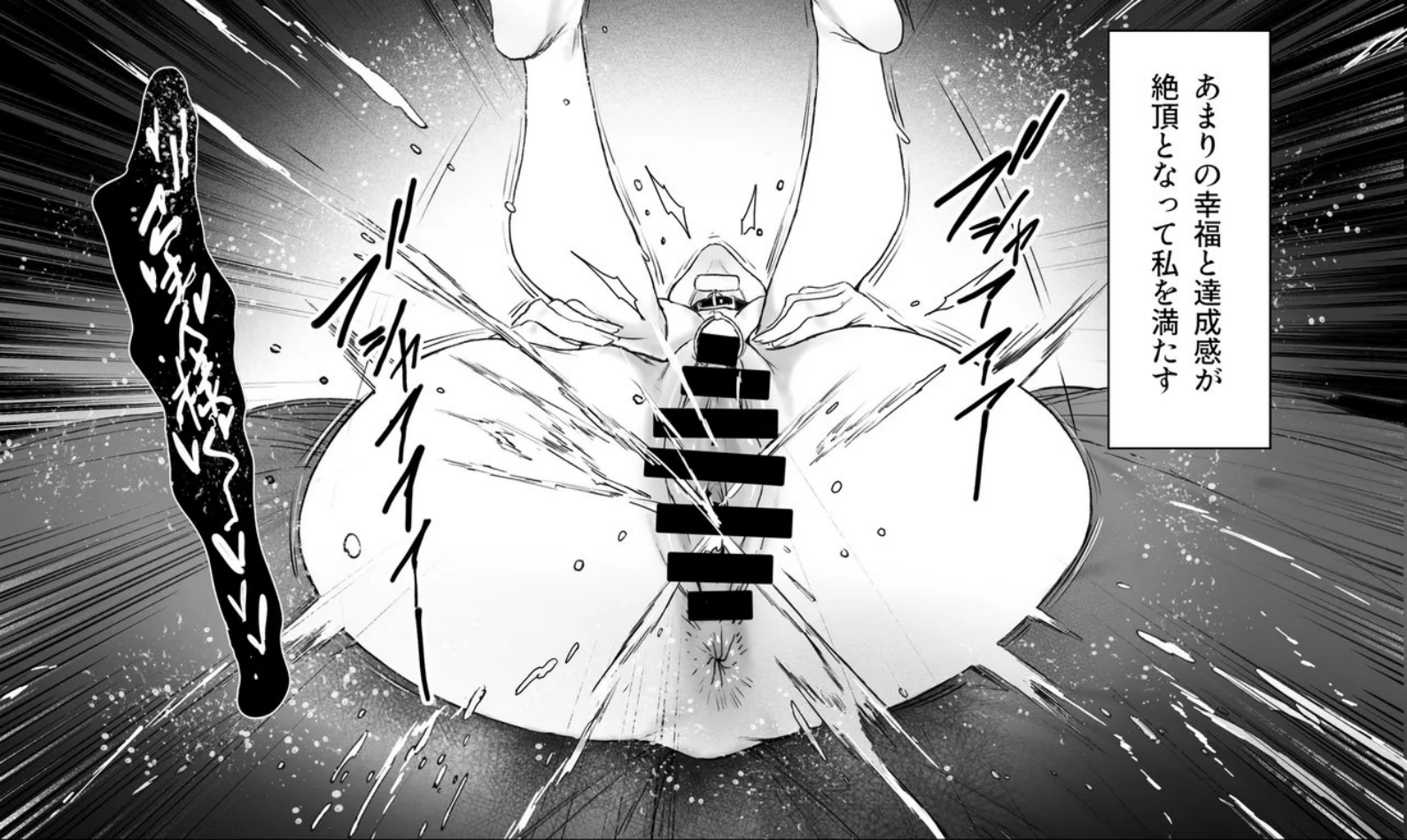


彼は自らの手で
最後の証を



私に授けて下さった

あまりの幸福と達成感が
絶頂となって私を満たす



私は正式に奴隷となった

こうして

儀式は
終わらない

受けた調教の成果を
ご主人様に披露する

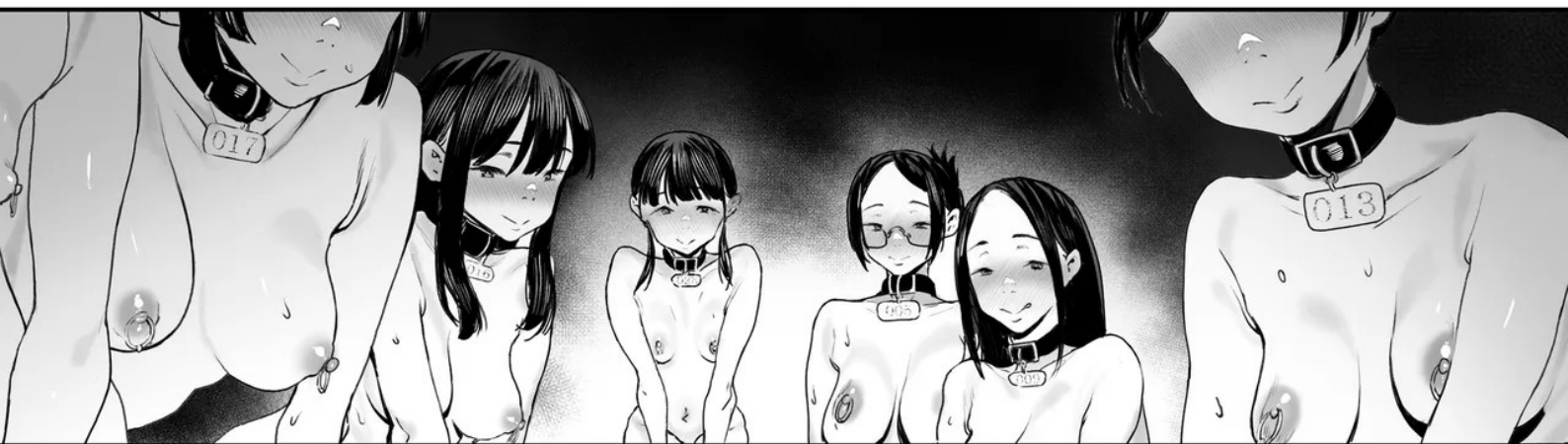
初めてここに来た夜
みんながそうしていた
ように

奴隷として雌としての
生き方をご主人様に示す





今ならご主人様の奴隷だと
胸を張って言える



ご主人様はご褒美に



私の身体をみんなに
差し出してくださった







最高の夜が明けると

改めて
新しい日常が始まった



おかえりなさい
ご主人様



もう母と娘の関係ではない同じ奴隷同士
ご主人様に仕えるための道具

対等な関係であり



みんな新しい家族だ



一緒にご主人様の最高の芸術品
となるため

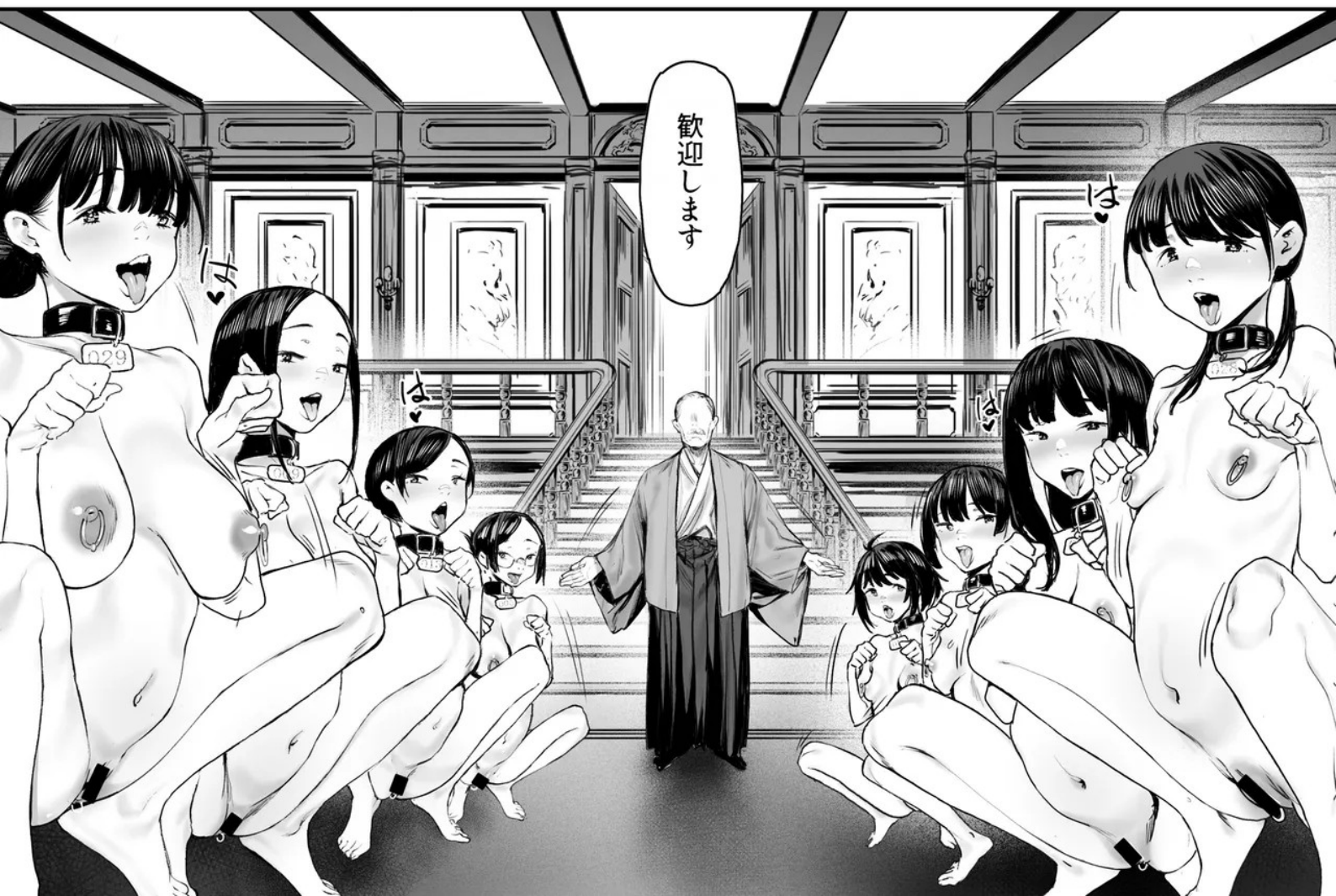
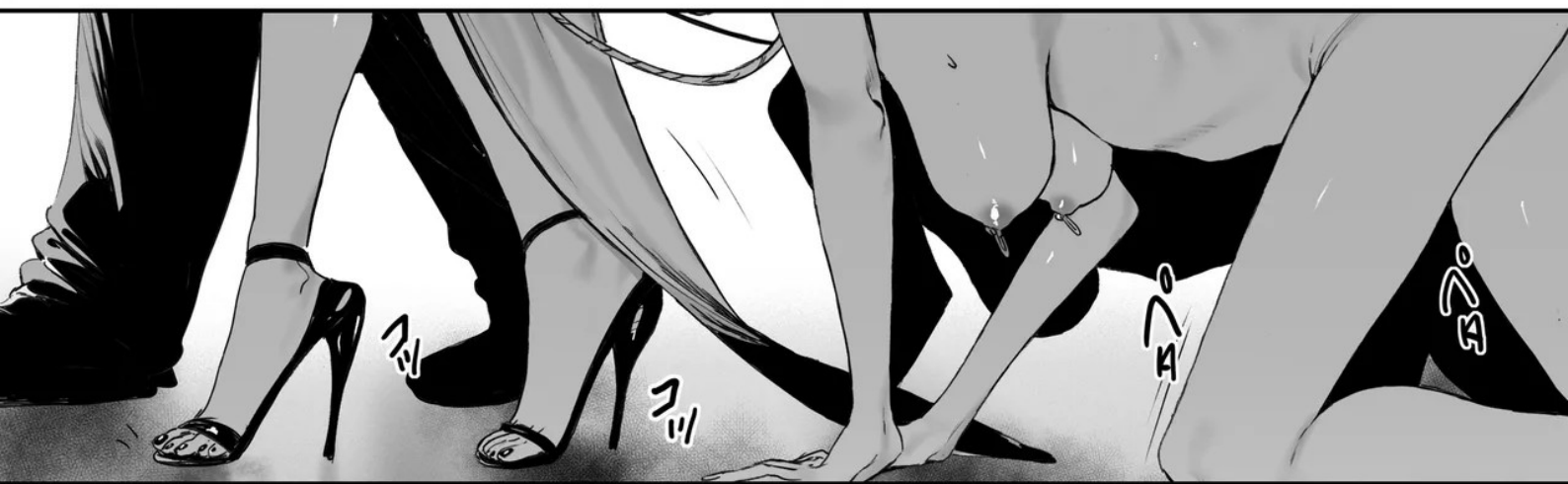


ご主人様を満足させるため

調教の日々を繰り返した

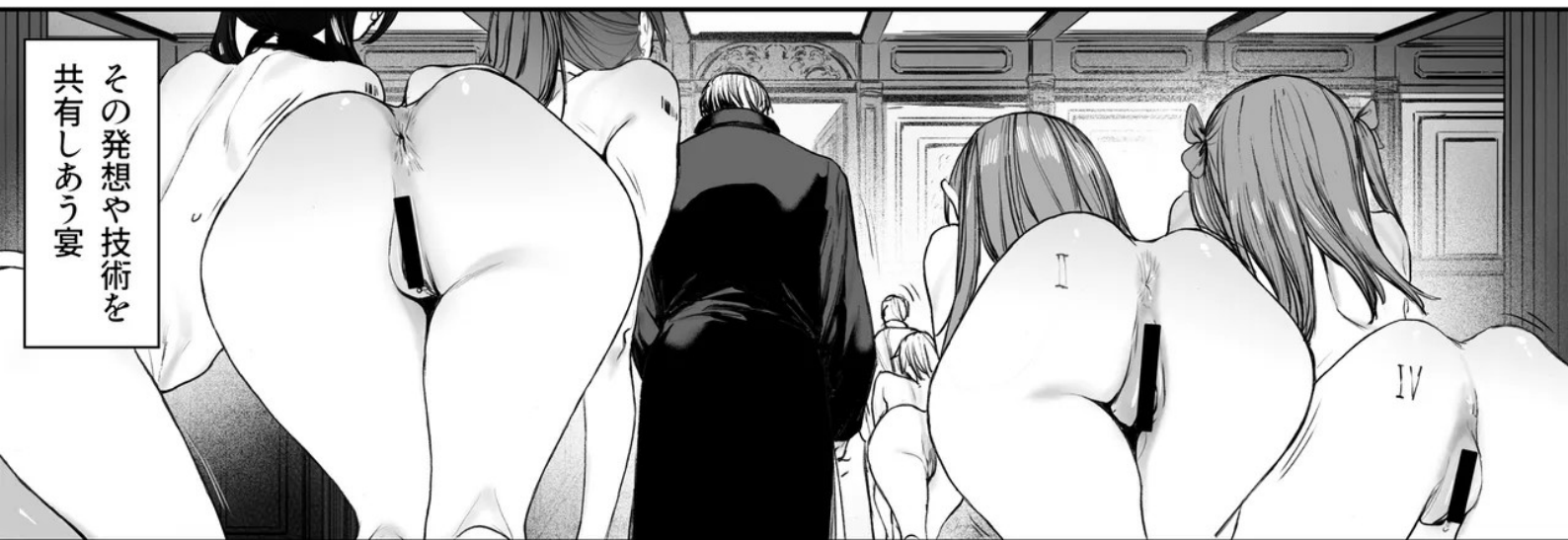
ここに来て半年が経ったある日――

「交流会」が開かれた





同じ趣味を持つ調教師たちが
お互いの作品を披露し



その発想や技術を
共有しあう宴

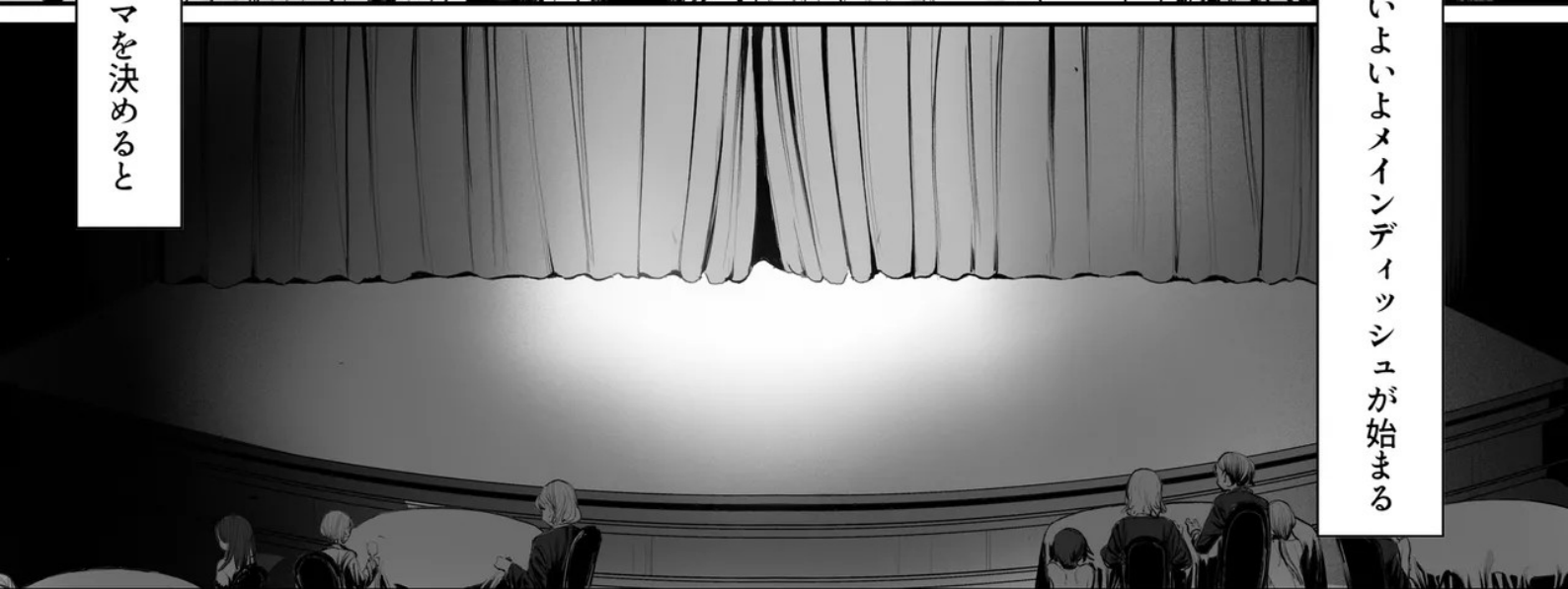


奴隷たちの展覧会だ

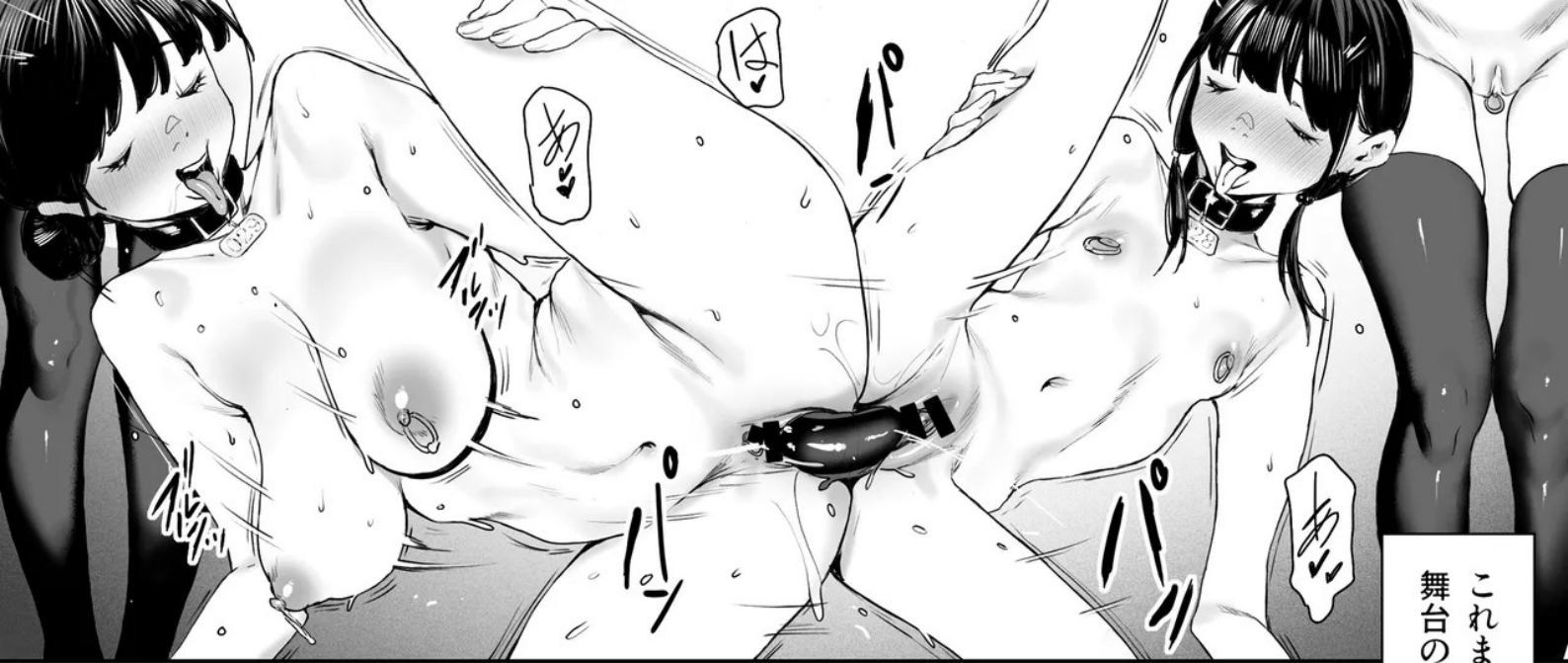


ご主人様たちがテーマを決めると

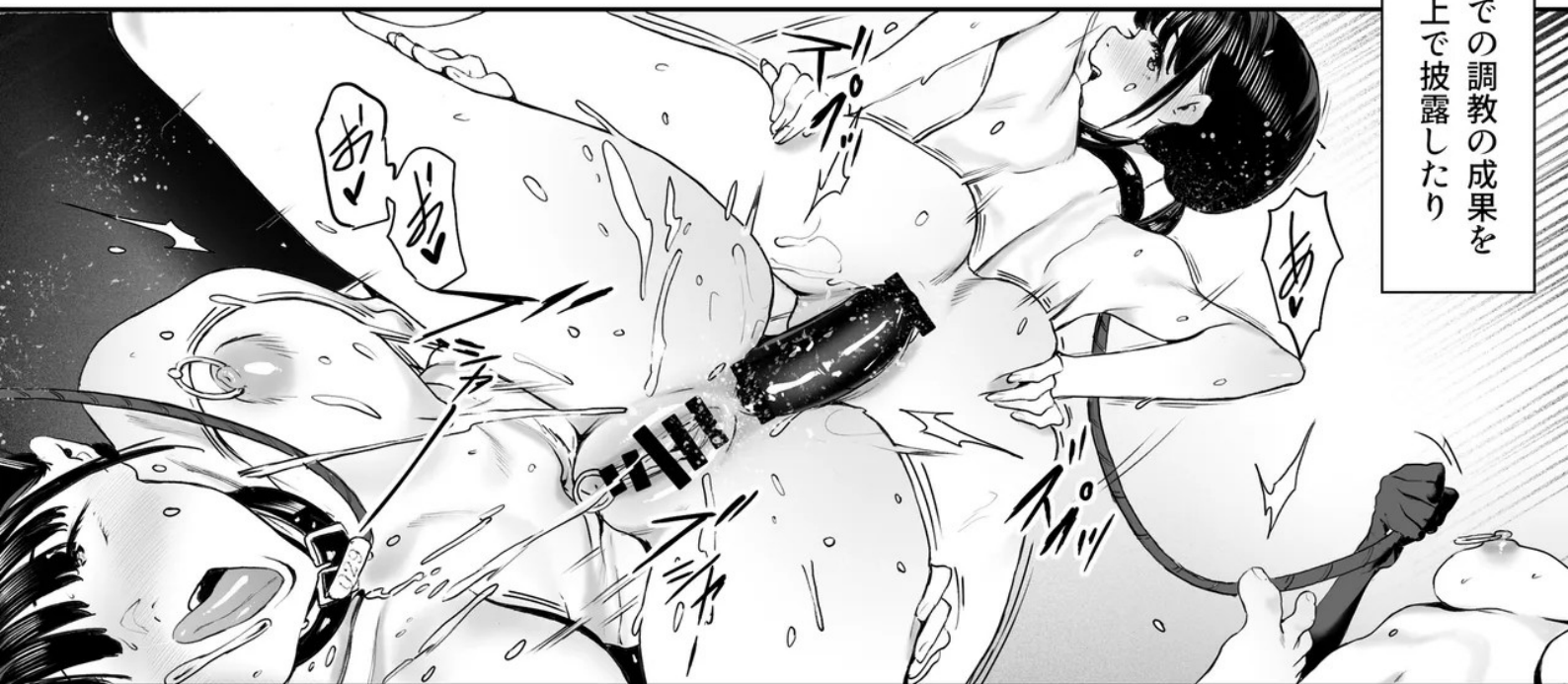
いよいよメインディッシュが始まる



私は娘と一緒に「新作」の代表として



これまでの調教の成果を
舞台の上で披露したり





他の奴隷たちと「交流」したり



[illegible]

最も下品な姿を晒して自分の
ご主人様の威厳を示したりした





何度絶頂したか分からない





気付けば
表彰式になっていた…

それでは結果発表です

今回の優勝は

私のークッキーちゃんです

クッキーちゃん
クッキーちゃん

みんな手ごわくて
優勝はできなかった

次は必ず優勝する
と28と共に決意を固め
さらなる調教を受けることに決めた



さあー奴隷のみなさんー
クッキーちゃんに
ごー褒ー美ーをあげましょう



ああ……次は勝ちたいな……



こうして
表彰式も終わり

ここからは
さらに親睦を深める時間

前よりもずっと
美しくなったな
やはりここに
預けて正解だった

はー

相性のいいご主人様がいたら
その人の奴隷になることもできる



ねえ
私の奴隷にならない？
いっぱい虐めてあげるからさ



優勝こそできなかったけれど
私たち母娘は人気だった



君たちは私の宝物だ

28

29

前略あなた
私たちは今とても幸せです

はい♡ご主人様

これからもご主人様のために
全てを捧げ続けます

どうか天国から

私たち母娘を見守って
いてください

はい♡

はい♡

